

1968 (昭和43年)

会員数49名

17代理事長
菊池公蔵



高度経済成長の時代、昭和43年に菊池公蔵氏が17代理事長に就任した。文化面で他地域に遅れをとっている事を痛感し、文化的事業を推進して行こうと考えた。

2月18日に新制作座に依る「野盗風の中を走る」を公演した。公演に際しては会場問題、二回目でどうかと言う声が聞かれ賛否両論が激しく交された。しかし、公演後の市民並びにメンバーからは大成功であったと聞く。



新制作座(野盗風の中を走る)の公演を終って

八幡浜市にも市民会館と言う声がありながらも「土地がない」「まだ必要ない」と言う声があり見送りになっていたがこの公演の収益金の一部を第一号市民会館建設基金並びに愛宕中学校復興義援金として寄付した。この基金からにわかに現実のこととなって来た。これをきっかけに他団体からも寄付があったりして市側も実現の方向へ進みだした。このようにして現在の立派な市民会館が建立されたのである。

3月に入り「第11回勤労青少年の門出を祝う会」が13日に新開地劇場で中学を卒業して県内外へ就職する市内の8中学校生徒307人を招いて開かれた。

4月には文芸春秋後援に依る文化公演会を開催した。講師には柴田鍊三郎氏・黒岩重吾氏・梶山季之氏という人気作家を招き、柴田鍊三郎氏が「日本人の伝統」という演題で「武田信玄の戦国の世での武将としての哲学を例えて、人間の勝利には三通りあり、五分の勝利(自軍に励みを生ずる)七分の勝利(自軍におごりを生ずる)完全な勝利(おこたりに生ずる)。だから信玄は五分の勝利でやめている。こうした哲学は、とくに経営者にも参考になるのではない。昔からの哲学の伝統は失わないで欲しい」と語った。黒岩重吾氏は「現代の風俗」という演題で「現代の風俗で一番感じるのは女性の意識、地位の向上である。もう一つは物質万能主義だ。サラリーマンは仕事に情熱や誇りをもたずお金のことばかり考えている。こうした風俗の現代で生きる男性は孤独である。従って男性に必要なのはオッパイすなわち女性のあたたかい心である」と語った。梶山季之氏は「青年を叱る」という演題で「東京の青年なんかを見ていると過保護、度胸のなさ、考えの浅さ、など大局的

にものを考える青年が少なくなっている。大いに海外へ雄飛してもらいたい。外国で日本人は立派な仕をしている。日本人は優秀な民族だ。全てにスケールの大きい外国で十分活躍できる。そして故郷に錦を飾るなんて考えず根を生やすことだ」と語り、七百五十人余りの聴衆は多に魅了された。

6月16日に阿南JC認承証伝達式が行われ理事長を先頭に数名が出席した。宇和島からは理事長一人がお祝いにかけつけていた。一人淋しくしている姿が印象的だった。八幡浜JCは創立時からみんなが協力するのは当たり前だという考えがあった。だから理事長一人だけを行かすということは考えられなかった。

7月にはソフトボール大会、8月には大島海水浴場に於て夏季家族会を69名の参加で催され、JCメンバーの親睦を計った。

8月11日には愛媛県協議会及び中・高生作文募集のブロック表彰式があり、八幡浜JCから出品した中から4点が入賞し表彰された。

10月にはみなと祭仮装行列に「昭和元禄ハレンチ行進」という題で参加した。フーテン広場・グループサウンズ・幼稚大学スト突入等奇抜なアイデアで鮮やかなイメージを出し、市民を喜ばせ奇抜の部で会頭賞を受賞した。



昭和元禄ハレンチ行進(みなと祭り仮装行列)

11月1日JC統一事業「二十一世紀の文明を創る教育のビジョン」というテーマで、県議でOBの平田久市氏と教育関係者29名、JC18名の参加で座談会を開き教育にも関心が持たれた。

12月1日高松で四国地区協議会15周年記念式典が行われた。八幡浜からも大勢で参加し、席上平田初代理事長が表彰された。親睦の活動が多かった時代から社会開発の推進にも比重をもった活動に変化していった時代であった。



JC統一デーで教育関係者との座談会

1969 (昭和44年)

会員数53名

18代理事長
木梨亨



昭和44年、木梨亨理事長、是沢輝明・宮川昌悦副理事長、伊藤礼司専務理事でスタートしたこの年は画期的な年だった。

数年前から継続事業をやめて、新しい行事に取り組みたいと言う気持ちがあった。その為には、従来の行事も続けて行うのは荷が重いと、木梨理事長の英断で、11年間に亘った勤労青少年の門出を祝う会や市内小中学校児童国画展・少年ソフトボール大会を廃止した。多少の抵抗もあったが、新しい行事をするためにはやむを得なかった。

新しい事業として、第1回臼杵・大洲・八幡浜3JC経済交流会、社会開発計画アンケート報告「明るい豊かな八幡浜市を築くために」の発刊を行った。特にこのアンケートは、新年から全会員が取り組み設問(総勢125題)作りから八幡浜市民一世帯を抽出してのアンケートの配布・回収・回答の分析集計・編集に取り組み12月20日発刊と一年がかりの行事であった。

JC運動の姿勢は、新しい社会をつくり出す豊かな創造性と革新性を持った市民まきこみ運動であると考え、この年は他の事業として、1月元旦の新年合同祝賀会をかわきりに、3月には脇水教育長外39名の出席を得て、現在の学校教育の問題、親・子の対話について、現在の家庭教育の在り方について特にしつけ、教師と管理職の対話、採点法についてテスト中心主義の欠陥、PTAについてをテーマにした教育座談会、6月、平田久市県議外56名の出席を得、第一回臼杵・大洲・八幡浜3青年会議所経済交流会を開催、大会決議文起草委員が3JCより出て作成・発表、満場一致で採択された。

7月、日本青年会議所および各地青年会議所主催で、中学「すばらしい私達の仲間」高校「明日の社会を考える私たちのグループ活動」をテーマにした中・高校生作文募集をおこない、愛媛ブロック協議会にて上位入賞の高校の部2点、中学の部2点が日本青年会議所へ送付され、高校の部1点が日本青年会議所会頭賞をうけた。

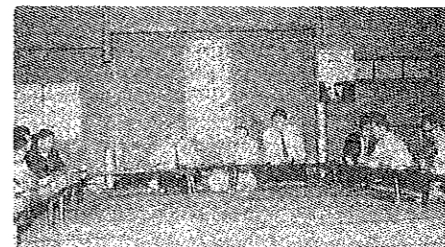
9月、灘尾前文部大臣、田中元法務大臣、阿部喜代議士の国会報告演説会開催のため来浜するのを機会に同演説会終了後、千代田旅館で三代議士を囲み、日本の安全と防衛、これからの大学像について話し合った。

10月「万国食博」と題し参加者27名で仮装行列に参加し、奇抜の部で優勝した。この時の市民募金で八幡浜警察署へカープミラー・横断旗(四万六千三百八十三円相当の品)を寄贈した。

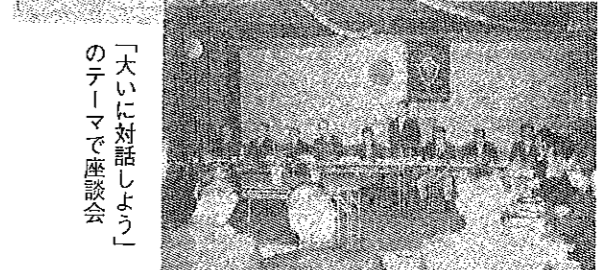
11月、国民外交協会主催、八幡浜青年会議所の後援で、毛利松平代議

士、垣坪前スイス大使、政治漫画家、評論家近藤日出造の三氏による、演題「今後の日本の進路について」の後援及び安部と防衛、これからの大学像についての座談会を開催した。同月25日には高市慶久愛媛運動室長、今井清子愛媛婦人少年室室長外50名の参加を得て、勤労青少年の福祉増進のための市民意識を高揚する運動座談会・分科会を開きテーマは私達の職場について、私建の職場の福祉厚生について、勤労青年の余暇利用について、グループ活動について私達が期待する郷土について等であった。その後今井清子女史による「私達と余暇」の講演会を催し、その夜勤労青少年の集いのダンスパーティーを開催、三百名の参加があった。

12月20日定時総会を催し、この年に片山武弘・門欣之助・坂本武・菊池公蔵の四氏が定年に達しめでたくJCを卒業された。



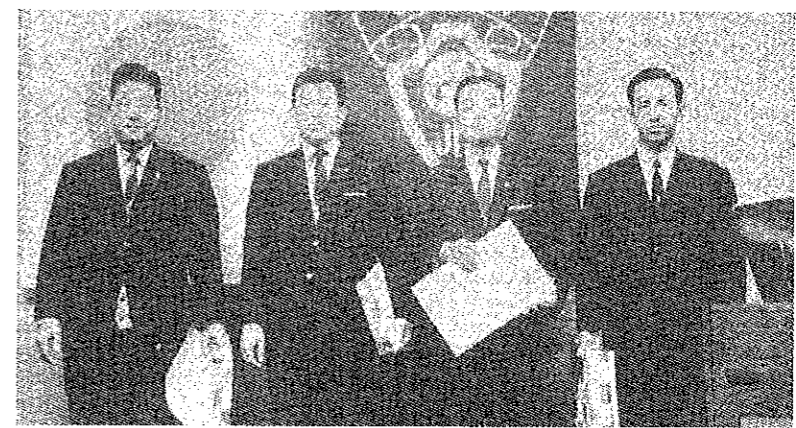
三代議士を囲む座談会



「大いに対話しよう」のテーマで座談会



臼杵・大洲・八幡浜JC経済交流会



この年卒業の菊池・坂本・片山・門の各氏